

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（779））

2. 日 時：平成30年3月16日10時30分～12時20分

13時30分～15時15分

3. 場 所：原子力規制庁 8階A会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

津金主任安全審査官、秋本安全審査官、照井安全審査官、関根技術研究調査官、
郡安技術参与、堀野技術参与

（原子力規制部 審査グループ 地震・津波審査部門）

植木安全審査官

事業者：

日本原子力発電株式会社：発電管理室 副室長 他14名

東北電力株式会社：原子力部（原子力業務） 副長 他2名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部設備技術グループ 担当 他2名

中部電力株式会社：原子力部 設備設計グループ 担当 他3名

北陸電力株式会社：志賀原子力発電所 保守部 機械保守課 担当 他1名

中国電力株式会社：電源事業本部（原子力設備） 担当 他1名

電源開発株式会社：原子力技術部 設備技術室 担当 他1名

5. 要旨

（1）日本原子力発電から、3月13日及び本日の提出資料に基づき、東海第二発電所の工事計画認可申請のうち、圧力低減設備のポンプの有効吸込水頭に関する説明書及び耐震性に関する説明書について、説明があった。

（2）原子力規制庁から主に以下の点について指摘を行った。

【圧力低減設備のポンプの有効吸込水頭に関する説明書】

- 重大事故等時に新たに考慮している発生異物等の評価について、根拠も含めて詳細に整理して提示すること。
- 今回新たに実施した化学影響生成異物の圧損試験について、結果に影響を与える試験条件（水温、試験形状等）や実験結果の詳細を整理して提示すること。

【水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに関する影響評価結果】

- 水平2方向同時加振の影響評価のうち原子炉圧力容器スタビライザ及び原子炉格納容器スタビライザについて、図を添付すること。また、シアラグについて説明を追加すること。
- 矩形配置されたボルトについて、長方形の場合の評価について、ボルトの数が異なる場合も含めて整理して提示すること。
- 耐震評価で考慮している1.5倍の裕度と水平2方向の地震力の増分を考慮する $\sqrt{2}$ の裕度について、それぞれの考え方と相互の関係を整理して提示すること。

- 「表1 構造強度評価」に示されている影響の有無の説明について、その根拠を整理して提示すること。
- 既に指摘しているが、構造強度評価において原子炉格納容器の座屈の評価がないので、座屈の評価の必要性を整理して提示すること。

【耐震性に関する説明書の機電分耐震計算書の補足について】

- 弁の動的機能維持評価について、スペクトルモーダル解析における加速度、固有値、入力値、振動のモード等のパラメータ、スペクトル図を整理して提示すること。
- 高振動数領域を考慮した弁の動的機能維持評価について、評価の方針及び手法について設計用床応答曲線の作成方針に対する指摘事項への説明と併せて整理して提示すること。

(3) 日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・ 機器・配管系の耐震評価に適用する設計用地震力と解析手法（概要）